

# 令和5年度守恒小 「主体的・対話的で深い学びの実現

## ～生徒指導の要素を含む『学び合い』の活用を通して～

### 6年 算数 「比とその利用」

**本時の主眼:**自分の解決の見通しを基に友達と考えを話し合う活動を通して、「比の性質」を利用すれば比を一方の量から、もう一方の量を求めることができるということに気づき、その解決方法を考えることができる。

**単元を通して目指す子どもの姿:**「仲間をだれ一人取り残さない」仲間意識、「授業が楽しい」「分かった」「安心できる」「うれしい」といった達成感や感動を味わう。

**手だて①** 友達と交流できるように自分の考えをもたせる。

**手だて②** 教師が「だれ一人取り残さない」ということを何度も語り子どもに意識させる。

**手だて③** 学びへの意欲の高まりを感じたりや友達との交流の良さを感じられるよう、授業後に児童が自分の学びの姿を振り返る（ポートフォリオ型振り返りシートの活用）。  
(⇒学び合いの必要性を感じられる子どもが育つ)

**個人思考の姿:** A 多様な考えをもち自力解決できる、自分の考えを的確に表現できる B 自分の考えをもち自力解決できる C 自分の考えをもち途中まで自力で解決できる

**手だて①** 既習学習の復習、学習の足跡を残すなど課題解決につながるヒントを示し、自分の考えをもてるようにした。

**手だて②** 思考を整理する構造的な板書作り。(比を対比できる書き方、スプーンの挿絵など)

**手だて③** ヒントカード(3種類の考え方)を自由に選ぶ場の設定をする。

**「学びあい1」個人思考後の集団思考の姿:** 「目指す対話」追及する問いについて交流する活動の中で、友達の話聞いて「そうか」と受け止めたり、「いいね」と共感したり、わからないところは尋ねたりして、自分の意見を付け加え、深い学びへとつなげていく。

**手だて①** 自力解決できてない部分を理解したり再確認したりする交流であることを子どもに伝える。

**手だて②** 説明「まず」「次に」「そして」と問い返しの言葉「どうやって?」「なんで?」「どうして?」などを教室に掲示し、活発な意見交流ができるようにする。

**手だて③** 話し合いは、多くの児童が悩んでいる点に視点を絞る。

### 成果と課題

#### ポートフォリオ型振り返りシート

○一枚の紙の中に振り返りを納めることで、単元を通しての思考の変容がわかりやすく、評価しやすい。学習前に児童が「目指したい姿(学習のめあて)」を明確にすることで、自らの学習過程を振り返りやすく、次時の主体的な学びへとつなげることができていた。

●授業時間内に振り返り時間をとることが難しく、十分に振り返ることができていないこともあった。振り返りまで取り入れた時間配分が課題である。

●子どもの変容を客観的にとらえるための「ポートフォリオ型振り返りシート」は「なぜようになったのか」「なぜ学び合いを楽しみと感じたのか」理由を書かせる訓練(スキル学習)として、全校統一取り組むとよいのではないだろうか。

#### 話型の揭示

○「ここまで分かった?」と相手の理解度を確かめながら 説明をしたり、「どうしてこうなるの?」「なんで?」などと問い直したりして対話ができている。話型があることで、児童は対話の仕方が分かり安心して問い返す児童が増えていった。さらに話型にはない、「それはさ、・・・」「でも、・・・」「ということは・・・」など、相手の意見や考えを受け止め、対話する発言が生まれていた。また、「なでだろう?」と疑問を友達に素直に聞くことができるようになった。話型を活用した「学び合い」は、安心して自分を表現できる学級経営につながっていると考えられる。

#### 学び合い

○「学び合い1」の中で他の子どもの意見を見て、違う解き方で練習問題に取り組む子どもの姿があった。これは考えが広がり、深まったといえる。

○学習に苦手意識を持っている児童が、友達と対話し自分の考えを分かってもらえたと喜び、達成感を味わうことができた。

○友達が分かるまで説明している姿があり、学級全体が「誰一人取り残さない」といった意識をもって活動できていた。

○生き生きと話し合う姿や振り返りから、児童は自分とは違う意見、新しいやり方に触れることができ、共同学習の楽しさを味わうことができていた。

●一部では、「学び合い」の度合いが一方向的に説明するといった「伝え合い」になっているグループもあった。対話が生まれやすいグループ編成や教師の介入の工夫で改善できるかもしれない。

●「学び合い」には「対話スキル」や「話したい、学びたい」という意欲を掻き立てることも重要であることが分かった。

●本時では、誤答を取り上げることが対話的な学びにつながると考えられた。つまり、児童が課題解決に迫られ、対話がふくらんでいく話し合いの視点を設定することが重要である。

●質の高い学びには①温かい学級経営の充実②学習規律の徹底③教材研究が必要である。特に「学び合い」の視点を思考する上で、教材研究は欠かせない。教科のねらいの達成のためには、自然と子供たちは考え合う。学び合いありきではなく教科のねらいを十分に考え、そのねらいの達成のために一手段としての学び合いととらえることがよいと考えられる。

#### その他

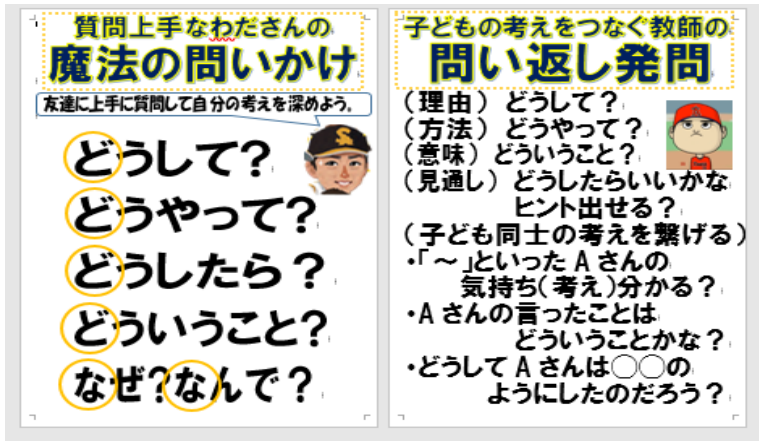
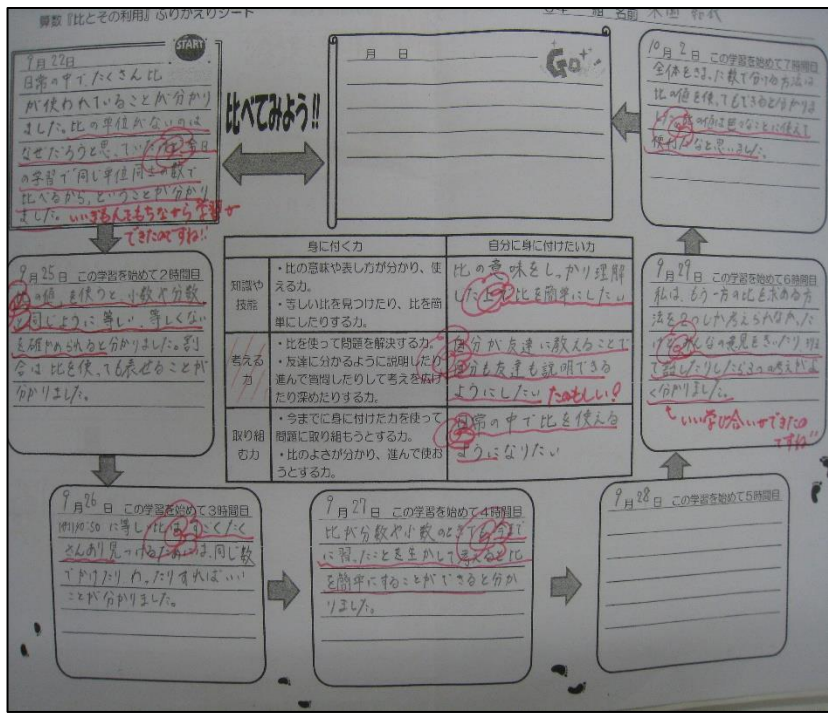
○1時間の中に学び合い1と2を取り入れることができていた。児童中心の授業になっていた。

○ヒントカードは、学力が低い児童が学び合い1の活動の際に取り残されないための工夫になっていた。

○教師が学年間での「学び合い」の目指す姿を実現できていた。

○子どもと教師が同じ方向を向いていた。

○めあてと振り返りを書く活動は、中学の学習へとつながっていた。



#### ★学び合いのポイント★

- ① 「課題解決の意欲を掻き立てる話し合いの視点」の設定
- ② 対話スキルの指導:「問い返し(話型)」
- ③ 話し合いの土俵に乗ることができる工夫:学習の足跡・構造的な板書・多様なヒントカード・話型の揭示
- ④ 学び合いの良さを実感させる振り返り活動:「ポートフォリオ型振り返りシート」